中型風力発電機を開発

製鉄所向けプラント設備など製造の山鋼プランテック（倉敷市玉島乙島）は、中型の風力発電機を開発し、３月から秋田県男鹿市で再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度（ＦＩＴ）に基づく商業運転を始めた。売電、自家消費のいずれにも対応する「発電所」として、脱炭素化の取り組みを進めたい企業や自治体などへの販売も予定。設置後のメンテナンスまで一貫対応できる強みを生かし、新規事業として積極展開していく。（河内慎太郎）

山鋼プランテック

売電、自家消費対応

秋田で商業運転開始

山鋼プランテックが商業運転を始めた「秋田男鹿第１発電所」＝秋田県男鹿市

発電機は高さ約55㍍、ブレード（羽根）の長さ約17㍍、出力３３０㌔㍗。風車の回転をそのまま発電機に伝えるダイレクトドライブ方式（ギアレス）を中型機としては国内で初めて採用し、高効率な発電やメンテナンスコストの削減につなげる。同社のシミュレーションでは、年間発電量は約87万８８００㌔㍗時で、二酸化炭素（CO_2）の排出を20年間で約８３００㌧抑制できるという。

昨年８月から建設に取りかかり、今年１月に「秋田男鹿第１発電所」として完成した。東北電力に全量を売電しており、今後は発電実測値を含む各種データを蓄積して販売活動に生かしていく。土地取得や本体設置などを含めた標準的な販売価格は１億５千万円。安定した風が吹きやすい東北地方を中心に将来的には１２０基の建設を目指す。

風力発電機の開発は、カーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）に向けて自社の取り組みを進めるため約４年前にスタート。大型（出力千㌔㍗以上）に比べて導入コストを抑えられ、設置スペースも少なくて済むといったメリットなどを踏まえて中型（同50㌔㍗以上千㌔㍗未満）の市場に参入した。

山鋼プランテックの中山紘行社長は「新規事業を通じて地球環境に優しい製造業を目指すとともに、ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）や環境に配慮した事業活動を目指す全国の中堅、中小企業などに活用を提案していきたい」と話している。

同社は２００８年設立、資本金１千万円、売上高約９億円（22年10月期）、従業員約30人。

（Ｃ）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2023年5月16日　山陽新聞朝刊　7ページ